



非日常が気付かせてくれた「もう一人の自分」

11月25日～27日に、5年生の宿泊学習「冒険活動教室（2泊3日）」を実施しました。今回私は、26日にイニシアティブゲーム活動の3時間程度でしたが、様子を見学させていただきました。イニシアティブゲームは、グループで協力して身体的・精神的な課題を解決する体験型ゲームで、チームビルディングやコミュニケーション能力向上に効果的です。10人ほどのグループでいくつかのミッションに挑みますが、各グループの支援者はルールを説明するだけで、全て児童に任せます。活動中は、男女を問わずよく声を掛け合い、積極的にアイデアを発信する子、隙間を見つけて静かに取り組む子、全体を見て判断する子、みんなの考えを大切にしようとする子、それぞれが考えをマッチングさせて少しずつ前進していきます。そんな中で、私がグッときたエピソードを3つ御紹介いたします。

1つ目のミッションでは、アイデアはたくさん出るものの、なかなか実行に移らないグループがほとんどでした。そんな中、壁登りに取り組むグループで、まずは自分が土台になり、リーダーシップを発揮する児童が出てきました。しかし、全員の息が合うまで時間がかかります。それでも、土台の児童は明るく楽しく声を掛け続けます。メンバーは次第に心を揃えられるようになり全員クリアしましたが、土台となった児童は結果的に10回以上も踏ん張ったのです。粘り強さ、優しさにグッときました。

2つ目のエピソードです。（細い）タイヤを脱出させるミッションです。こちらでも賑やかに作戦の議論はするものの誰も行動に移りません。膠着状態が続きます。7、8分経過した頃、議論には加わらず静観していた児童が、黙って土台となったのです。その子が行動に出るまでどれだけ考え、どれだけ勇気の必要だったことか。クリアには繋がっていませんでしたが、その姿はひととき輝いていました。こちらには、ほろりとしてしまいました（年なのですみません）。帰校してから本人に話を聞いたところ、「このままでは進まないから、まずは自分がやる。」と決断したそうです。

最後のエピソードです。直径60cmほどの切り株に全員がロープで移るミッションです。活動が進む中で、ある児童が泣き出していました。怖くなってしまったのです。さあメンバーはどう対応するのか。「自分のタイミングで」「天気が気持ちいいよね」くらいの言葉かけで、みんなは静かに待ったのです。それでも時間はかかります。そんな作業を何回か繰り返し、最終的にその児童は皆のもとに飛び込みました。帰校し話を聞いたところ「よし、行く!」と決断したとのことでした。さらにもう一人ファインプレーがありました。「（移る順番が）私はいつも最後」と、傍らで静かに支え続けた児童もいたのです。子供たちの深い優しさ、そして本人の勇気と決断にグッときました。

その他、引率教員によると、何気ないところにも成長があったようです。非日常の活動は、新しいもう一人の自分に気付かせてくれました。それぞれが、今後の自信に繋げていってほしいと思います。

御家族の皆様には、事前の準備から大変お世話になり、ありがとうございました。心から感謝いたします。



訓練は本番のつもりで

11月28日(金)、避難訓練を実施しました。今回は不審者対応の訓練です。不審者役で御協力くださったのは、警察スクールサポーターの大坪正明さん、参観くださったのはスクールガードチーフの奥村俊夫さんです。さて、各クラスでは不審者の侵入を伝える放送内容を1回で正しくキャッチし、的確な避難行動(入口へのバリケード作り)がとれていました。そして、訓練は繰り返し実施することに意味があります。人の心は常に安定を図ろうとするため「自分は大丈夫」と思い込む、いわゆる「正常性バイアス」が働いてしまうからです。つまり、「自分は大丈夫、避難する必要はない。」という選択をしてしまうのです。そのため、訓練の時から本番のつもりで取り組むことで、避難への動きを体に染み込ませ、いざというときにパニックになることを避けるのです。避難訓練は命を守ることに直結する学習です。一方、職員側は、安全確保体制と共に、不審者への適切な対応が求められます。スクールサポーターさんの話では「一番は、学校から出て行ってもらうこと。確保ということは、先生方の命に危険が及んでしまう。先生方の命を守ることも大切です。」とのことでした。また、職員の不審者対応の研修も実施しました。不審者はいつでも侵入してくる可能性があることに心にと刻み、避難訓練は、常に「本番のつもりで」取り組みたいものです。



受賞おめでとうございます

10月2日(木)、築瀬小学校見守り隊の日頃の活動に対して、宇都宮防犯協会から感謝状が授与されました。本校は主要駅が学区にあります。利便性がある一方で、たくさんの人が通り過ぎる地区でもあります。そのため、子供たちが事件等に巻き込まれる可能性は他の地区に比べて高いと考えます。そんな状況の中、見守り隊の皆さんは、機動力よく、風通しよく、子供たちの安全確保に常に奔走してくださっています。この日頃の取組が認められたことは、ありがたく、隊員の皆さんのやる気をさらに高めてくれることと思います。築瀬地域の皆様、見守り隊の隊員数に上限はございません。新規メンバーとしてお力添えをお願いいたします。年間を通じて募集しております。



10月30日(木)、本校の読み聞かせボランティア「ら・ぶっく」の代表を務める大木雅子さんが、栃木県教育委員会より感謝状をいただきました。長年にわたり「ら・ぶっく」を率いて、学校教育支援ボランティアに尽力くださった功績に対する表彰です。子供たちにとって、読み聞かせや読書は心の教育につながります。今後とも、やなぜの子供たちのためにお力添えを賜りますようお願いいたします。ら・ぶっくの新規メンバーも年間を通じて募集しております。



11月29日(土)、宇都宮南図書館で宇都宮市の教育支援者感謝状贈呈式が行われ、本地区から柳田良一さんが受賞されました。今回の受賞は、本校教育活動並びに地域における児童の育成活動、そして児童の安全確保に御尽力されてきたことに対する表彰です。当日は、宇都宮市教育委員会小堀茂雄教育長から感謝状を贈呈されました。今後とも、築瀬地区の子供たちが生き生きと学びたくましく成長していけるよう、お力添えくださいますようお願いいたします。



